

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：ダイアナ保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：福田 勇	定員（利用人数）：100名（77名）	
所在地：〒240-0021 神奈川県横浜市保土ヶ谷区保土ヶ谷1-16-1		
TEL：045-715-6329	ホームページ：http://daiana-hoikuen.com	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1978年1月		
経営法人・設置主体（法人名等）： 社会福祉法人 武蔵野ユートピアダイアナクラブ		
職員数	常勤職員 15名	非常勤職員 7名
専門職員	保育士 16名	保育補助 1名
	栄養士 4名	調理師 1名
施設・設備 の概要	保育室 5室	トイレ 5ヶ所 15個
	調理室・厨房 1室	事務室 1室
	ホール 1室	園庭 有
	鉄骨ALC造り 7階建の1～5階	

③理念・基本方針

◇ 保育理念

児童憲章に基づき、愛と心の理念のもと開設されました。

ダイアナ保育園は 『自主性』 『社会性』 『創造性』 を養い、心身の調和のとれた豊かな人間性の発達を図る保育を目標に努力します。

◇ 保育目標

「明るく元気な子ども」、「思いやりのある子ども」、「のびのびと遊べる子ども」、「情操教育」、「英才教育」、「グローバルな人間教育」 を保育の目標として、愛と心の自由な保育の中で、力を入れています。

◇ 5つの育ち

「知育」…絵本やお絵かき、音楽などを通じ、感性・創造性豊かな心を育てる

「教育」…乳幼児期から英語や文字に触れる機会を提供する

「徳育」…茶道を通して、立ち居振る舞いや挨拶、日本文化を学び社会性を育む

「体育」…身体を活発に動かす機会を作り、健康的な身体づくりを目指す

「食育」…食の大切さを学び、栄養バランスの取れた給食を提供する

これら「5つの育ち」を大切に、社会性・創造性・協調性を育むよう関わり、見守っていきます。

④施設・事業所の特徴的な取組

- ◆ 園児の『自主性』『社会性』『創造性』を養うための、様々なカリキュラムを用意しています。外部講師を招き、全クラス、音楽の授業・英語の授業は週に1回程度、幼児クラスは、体育の授業も週に1回程度、また、年長児は、茶道教室を月に1回程度取り組んで行けるようなカリキュラムになっています。
- ◆ このほかにも、季節に合わせた活動や散歩、夏季のプール、運動会や発表会を始めとした年間行事等、様々な活動を楽しめるようにしています。食育活動では、給食と保育で協力して、子どもたちが楽しめるように、毎月のねらいや取り組みを決めたり、年長児は、プランターを使い、野菜を育てる体験をしたり、クッキングも年に数回取り入れて、作って食べる楽しみを体験しています。
- ◆ 保育時間内で行える課外活動（習い事）にも力を入れており、希望者には、体育授業や英語、スイミングと充実させています。
- ◆ 法人の系列で埼玉県に老人ホームがあり、今はコロナで中止していますが、年長児のお泊り保育の際、交流も兼ねて埼玉へ行きます。おじいちゃん・おばあちゃんとの触れ合いや、春には田植え、秋には稲刈りをしたりとたくさんの経験をすることができます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年4月14日（契約日）～ 令和4年12月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2017年度）

⑥総評

- ◇特長や今後期待される点
- 1)食育に力を入れています
食育委員を設置し、毎月各クラスで食育活動の計画を立てて実践しています。野菜の名前や野菜の特徴について学んだり、プランターで野菜を栽培して世話をし収穫する体験もしています。また年に4回栄養士が用意した季節の食材を子どもたちが実際に手にとって触ったり、匂いを嗅いでみるなどして食への興味を深めています。食体験を多く積めるように様々な献立を計画し、季節や行事に合わせたメニューや海外のメニューの提供など、食を通じて異文化に触れる体験もしています。
 - 2)様々なカリキュラムを実施しています
週1回専門講師による音楽授業と英語授業を行っています。幼児クラスでは、さらに週1回体育授業も行われています。また5歳児は、茶道の先生による茶道の指導もあります。畳に座ることからお茶をいただくまで、立ち振る舞いや挨拶を学び、日本文化に触れる機会となっています。お泊り保育や現在はコロナ禍の為実施は控えていますが、田植え、稲刈り等の農業体験や老人ホーム訪問等様々な社会体験の機会を提供しています。
 - 3)業務の分散により、個々のスキルアップと業務集中に配慮しています
職員の業務内容を見直し、保育専門リーダーを3名設置しています。それぞれ広報担当、外部業者対応、保育書類関連対応、学童サポートと主任を補佐し、主任に業務が集中しないような工夫をしています。園内研修担当の分野別リーダーや食育委員、安

全委員等、職員がいろんな役割を持つことで、責任感をもってチームワーク良く仕事を回しています。職員には有給休暇取得や残業管理を行い働きやすい環境づくりをしています。

4)職員・利用者とのコミュニケーションの強化が期待されます

園長は、施設のトップとして職員とコミュニケーションをとり課題などの共有化を行い、職員と一緒に改善に取り組むことが期待されます。また、利用者家族との意見交換や、利用者意向や園の状況について理解し合う関係作りが期待されます。職員育成や職員の意欲向上につなげ、利用者からの信頼確保につなげる関係づくりが期待されます。

5) 地域との連携・支援の復活が望まれます

園は1978年の開設で来年は開設50周年の記念すべき年を迎える歴史を持っています。長い歴史の中で園自身も運営の変化や職員の入れ替わりもあり、地域の関係機関等の担当者も世代交代しています。また、園が持つ保育の知識は地域の社会資源となっています。そうした中で、地域の具体的な福祉ニーズの把握と情報交換を行い、地域社会に対する各種支援の提供が望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今年度は5年ぶりに第三者評価を受けました。

評価を受けるにあたり、職員で評価項目についての話し合いを行う機会があり、慌ただしい毎日の中で見逃していた保育の様々な部分を見直すことが出来ました。

第三者評価の取り組みを始めた頃までは自分たちの保育がきちんと行えているのか等、不安を感じていた面もありましたが、職員間で話し合った評価項目をもとに第三者委員の方々と内容を確認していく過程で、出来ている部分、課題となっている部分を客観的に確認することが出来、漠然と感じていた不安は、日々の保育への新たな目標や自信へと変えることができ、とても良い機会をいただいたと感じています。

今後は、明確となった目標や課題を職員間で共有し合いつつ、子どもたちが楽しく過ごせる環境や保護者の皆様が安心してお子様を預けられる環境を向上させていけるよう職員一丸となって取り組んで行きたいと思えます。ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり